LA DOLCE VITA

海とイタリアをこよなく愛し、ワイン、アート、マリン文化に深い造詣を持つ伊藤英一氏。 この新連載では、氏がこれまで体験してきた地中海のマリタイムの煌めきを中心に、海と食とボートに関わる彼らのライフスタイルを語る。 text & photo: Eiichi Ito

#05 カンティエーレ(造船所)の街、ヴィアレッジオ

Viareggio, Toscane, Italy

ジェノヴァの南、ピサやリヴォルノにほど近いヴィアレッジオ (Viareggio)は、世界有数のスーパーヨットビルダーの集積地としての顔と、高級海浜リゾートとしての2つの顔を併せ持つ、ティレニア海 (地中海の一部)の "輝ける星"と呼ばれている街である。トスカーナ州の州都フィレンツェからは車で1時間半程の近さなので、夏にはヴィアレッジォ周辺の海浜リゾートへ向かう車で大渋滞となる。かつてその大渋滞に巻き込まれてしまった時のこと。全く動かなくなったアウストラーダの車の列。するとビーチで使うはずの折りたたみテーブルと椅子を車から出して高速道路上にセッティング。砂浜ならぬアスファルト上で俄かリゾートが始まった。それが一台二台ではない。一瞬にして路上パーティーのオンパレード。さすがにイタリア人のノリには驚いてしまったが、何だか微笑ましく渋滞のイライラも何処かに吹っ飛んで行ってしまった。

ヴィアレッジォでは年間を通して様々なイヴェントが催される。夏にはジャズやカンツオーネのフェスティバル、ヨーロッパ・シネマ国際フィルム祭等等。なかでもイタリアオペラの巨匠プッチーニがヴィアレッジオ郊外に居を構えていたことから、湖畔に建設された3,200席もの野外劇場でプッチーニ・オペラが盛大に行われる。また2月には、ニースと並んでヨーロッパで最も有名かつ最大のカーニヴァルが開催され、毎年100万人もの人々が訪れるという。



プライベートビーチを借り切ってのViareggio Polo Beach Cup。3日間の白熱した戦いは、FIPAグループの優勝で幕を閉じた。

ビーチポロ競技大会

ヴィアレッジオを中心に広がるビーチはなんと全長 46km も 延々と続いている。しかもそのうちの6kmに及ぶ広大な砂浜は 完全なるプライベートビーチとなっているが、勿論料金を払え ば誰でも利用出来る。ニースやカンヌも及ばないその規模と施設の充実ぶりには驚かされる。ビーチハウスには、室内プール、ジム、スパをはじめ、レストラン、バーやクラブまで完備しているし、広大なビーチは完璧に整備され、パラソルが一斉に開いた様は圧巻という他ない。あるビーチハウスでは日本製の竹の くま手で京都の石庭宜しく、丁寧に砂浜に波の紋様を描いていたのには感激させられた。

そんなプライベートビーチを、ヴィアレッジオに拠点を構える スーパーヨットビルダー「FIPA」グループが借り切って、ビーチポロ競技を開催。その招待を受けて久々にヴィアレッジォを訪れた。

パラソルが消えた初秋のビーチに競技会場がしつらわれ、周辺には洒落たテントにラウンジやバーや軽食コーナーがセッティングされた。会場のあちこちにはFIPAのスーパーヨットの模型が展示され、沖合には「ABヨット」の100フィートの巨体がアンカリング。シチュエーションは完璧だ。世界中からFIPAの顧客やポロ愛好家が一堂に会し、その華やかさに、イタリアの上流社会の一幕を垣間見た思いがした。

ポロ選手も馬も、イギリス、スイス、アルゼンチンからと国際 色豊かだ。僕は、銀盆に山と積まれた大好物なヴェンキのマロングラッセを頬張りながら、初めてのビーチポロ競技を観戦して気がついた。まず馬はメチャメチャ可愛い小型のポニーである事、柔らかく大きいゴムボールを使う事、競技場は芝生のポロよりずいぶん狭い事等々、矢張り実際にまのあたりにしないと気がつかないのだと思う事しきりであった。

競技終了後スイスから来たという大柄の選手と話をしてみ ると日本と寿司が大好きとの事。柔道の黒帯の持主でもあっ



FIPAグループの一つ、CBI naviの巨大ヤードでは50m、40m、33mの建造が進んでいた。 さらに隣のヤードでは77mと36mも建造中。ヤードの岸壁に保留されているのはAB yachtの100フィート、右写真はAB yacht 140フィートの模型と注文主の奥方。 これがカンティエーレの街、ヴィアレッジオ。

た。最近はどこでも寿司と日本酒の話で盛り上がる。競技最終 日の夜は、着席での打ち上げディナーパーティーが催され、夜 中まで楽しい宴が続いた。

スーパーヨットのシートライアル

ヴィアレッジオはスーパーヨットのカンティエーレ(造船所)がところ狭しと軒を連ねている。「FIPA」グループ、「アジムート・ベネッティ」グループ、「コデカーザ」、「ロッシナヴィ」、「オヴェルマリン」、「ピキオッティ」、世界最大のモーターセーラービルダーの「ペリーニ・ナヴィ」などが巨大なヤードを構えていて、その様は圧巻である。

後日、巨大ヤードが林立する岸壁に係留されているスポーティング・フライングブリッジ「AB100」に乗り込む事ができた。「ABヨット」は、「FIPA」グループが有する3つのスーパーヨットブランドの一つで、世界で最も早いスーパーヨットの一つとされている。3基のMAN 1,900HPにそれぞれMJP 500 CSUウォータージェットとブースターのセッティングは強烈の一言。最高速50ノットに達した時も100フィートの巨体はごくスムー

ズで実に波あたりが柔らかい。離着岸はジョイスティックとバウスラスター、走行時にはオートパイロット。あまりの操縦性の良さにこれまでのウォータージェット艇の概念が根底から変わる経験だった。

世界に50とも60とも言われるスーパーヨットビルダーのうち、約半数近くがイタリアンビルダーである事は日本ではあまり知られていない。地中海の中心に位置するイタリアは、その地の利を生かして欧米の顧客へスーパーヨットを供給し続けている。ちなみに世界中で生産されたスーパーヨットは毎年700艇を越えているが、そのうち一体何艇が日本に来ているだろうか。「AB100」のようなスーパーヨットを日本でも見る事ができれば嬉しいのだが。**P.B.**

Profile

伊藤英

事業家。ボート歴は 10 代から既に半世紀以上。欧米の多くのリゾート地を訪れ、その土地の食やワイン、アート、音楽等に触れることを至上の喜びとしている。RIVA と RIB の熱烈な愛好家。

98 ————PerfectBOAT JAN. 2017